

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

主日の福音 2022/12/24(No.1213)



主の降誕（夜半）（ルカ 2:1-14）

救い主誕生は、ごく小さな目立たない働きに宿った

主の降誕おめでとうございます。主の降誕夜半の福音朗読を、「救い主誕生の出来事は、ごく小さな働き、目立たない働きに宿った」このようにまとめたいと思います。お生まれになったイエスをヨセフとマリアは「布にくるんで飼い葉桶に寝かせた」（7節）とあります。「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」とも書かれています。こうした記述は、イエスの誕生がまったく人の目に留まらなかったことを伺わせます。

夜半の福音朗読後半では、主の天使が羊飼いに現れて、「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」と告げます。当時羊飼いは低く見られていた存在、話題に上らない目立たない存在でした。さらに天使は、「あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」と言うのです。夜半の福音朗読からは外れますが、訪ねてみると、主の天使が告げたとおりの光景を目にしました。

あらためてここで考えるのは、もし当時ユダヤの人々がまことの救い主の誕生を待ち望んで真剣に探し求めていたら、遅かれ早かれ、イエスの誕生は皆に知られて、お生まれになった場所は人だかりになっていたはずで、場合によってはお金に余裕のある人が名乗り出て、「救い主をこんな粗末な場所に置いてはおけない。わたしが整えられた部屋を用意しましょう」こんなことが起こって、大騒ぎになっていたはずで、そうなってれば羊飼いは、「布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子」を見つけることはできなかつたでしょう。

しかし現実はそのではありませんでした。訪ねていってみると、主の天使が告げたとおりの光景を見ることができたのです。つまりそれは、誰の目にも留まっていなかったということです。出来事の大きさで言えば、天地がひっくり返るほどのニュースなのに、誰の目にも留まりませんでした。そして、人から低く見られ、話題にも上らない存在である羊飼いが、救い主に最初のごあいさつをしたのです。

出来事をまとめるとこうなるでしょう。クリスマスと言われるイエスの誕生の出来事は、誰の目にも留まらないほど隠された出来事でした。そしてその出来事に最初に触れたのは、これまた人に低く見られ、話題にも上らない羊飼いでした。イエスの誕生を計画された神は、出来事が小さく目立たない働きに宿るように計らったのです。

なぜ、このような計画を神は考えたのでしょうか。ここには、「誰が救い主の誕生を認める人だろうか」という問いの答えがあります。救い主の誕生を認めることができる人は、実は小さく目立たない人たちなのです。皮肉なことですが、クリスマスにしか教会に来ない人は「クリスマスの日に目立ってしまう人」です。そうではなく、「クリスマスの日にもあまり目立たない人」こそが、救い主に最初のごあいさつができる人なのです。ここに集まった私たちは、ほとんど目立たず、ネットで調べても見つけ出すことのできない人たちと言えましょう。まさに、救い主に最初にごあいさつをするのにふさわしい人々だと考えています。

私たちは今日、救い主を尋ね当てました。謙虚な心で待降節を過ごしてきたからです。小さく目立たない私たちだからこそ、神がご計画された最高の出来事に立ち会う喜びにあずかれています。救い主にごあいさつしようとしている私たちに今必要なのは知名度ではありません。むしろ、「何も誇るものがないという自覚」です。なぜなら、「救い主誕生のご計画は、ごく小さな目立たない働きに宿る」ものだからです。

主の降誕（日中）（ヨハネ 1:1-18）

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。